

# 平成25年度事業計画書

[平成25年4月1日より平成26年3月31日まで]

## 《総論》

### 1. 25年度の展望

平成25年度は前年度に引き続き、北九州市制50周年記念イベントとして様々な事業が予定されている。

既に、当協会管理の施設においても会場としての利用がいくつも予定されているが、当協会では、これら事業の主催者への協賛、支援、協力を積極的に行うなど、イベントの成功に向けて、取り組みを強化する。

また、平成25年度は現行の指定管理期間の最終年度であるとともに、次期（平成26年度から5年間）の指定管理者選定が予定されている。次期指定管理業務の獲得に向け、一つでも多くの目標達成に向け、積極的に営業活動に取り組むとともに、新たな見本市・展示会、イベントの開催実現に向けて引き続き取り組みたい。

なお、平成25年度の売り上げおよび利益については、現時点では24年度のレベルには及ばないと思われるものの、平年並を想定しており、それ以上を目指したい。

### 2. 今後の経営課題

当協会を取り巻く中長期的な経営環境は厳しく、数年後には競合する周辺他都市との誘致競争がよりいっそう激化することが予想されている。

引き続き誘致・営業の強化や稼働率向上および経営の合理化を図り、これまで以上に自主自立の経営の確立を進めていかなければならない。

### 3. 事業推進の方向性

#### (1) 公益財団法人としての地位・役割の確立

北九州市制50周年を契機とした地域浮揚に向け、産業の活性化やにぎわいづくり等において、当協会は中心的役割を果たしていくため、

- ・ 主催事業を行政施策や経済環境などと有機的に連携して実施することにより、産業・貿易の振興、国際交流の推進を図る
- ・ コンベンションやイベントの誘致・開催により、北九州市の国内外へのアピールや地域のにぎわいづくりに積極的に取り組む
- ・ お客様の満足度の向上と、より効果的・効率的な管理運営を行い、経費の削減に努める

といった事業運営を基本方針としつつ、西日本地域におけるコンベンション開催の拠点として、理想像である「北九州メッセ」の実現を目指すこととしている。

#### (2) 公益事業の充実（主催事業への取り組み）

西日本地域の経済活性化や産業・貿易の振興に寄与するため、国や地域の行政機関等の施策や方針と連携を図りながら、各種の見本市・展示会等を企画・開催する。また、新たな事業についても研究を行い、早期の立ち上げを図る。

### (3) 北九州市（地域）のにぎわいづくりへの貢献

北九州市制50周年記念関連事業の誘致・協力を行うとともに、国際・全国規模の大会・展示会等の誘致に積極的に取り組み、市域におけるコンベンションの更なる振興を図る。

また、小倉駅新幹線口地区の魅力アップとにぎわいづくりに資するため、平成25年4月のあるあるCityオープン1周年、及び8月の北九州市漫画ミュージアム1周年を記念したイベントの開催を検討する。

両施設の開業以来、小倉駅新幹線口地区の歩行者通行量が増加傾向にあるため、同地区の企業・団体や駅南側の事業者などと連携して、当該地区の魅力アップにつながるイベントや事業などを一体的に開催することを検討していく。

### (4) 顧客サービスの充実

質の高い貸館サービスの提供や施設の快適な利用環境を確保するため、引き続き施設利用者ニーズの把握と接客接客力の充実を図る。

併せて、営業上の施策として、施設利用者への広報支援等を充実させるなど、さらなるサービスの向上に努める。

### (5) 使い勝手の良い施設へ

各施設・設備についても安全性を最優先に老朽施設の修繕や設備・備品の更新を推進し、施設利用者の利便性・満足度の向上に努める。

特に本館については、築35年経過による劣化等に対応するため、維持補修に加え、耐震性の診断調査の実施に取り組む。

### (6) 行政との連携

北九州市をはじめ北九州商工会議所等の関係機関との積極的なタイアップを図り、産業観光拡大に向けた取り組みを強化する。

### (7) 行政への貢献

エコテクノをはじめとする主催事業の開催等、当協会の活動を通じて、国・県・市の各行政庁の施策振興に貢献する。

## 4. 25年度の活動

### (1) 基本的活動

#### ① 公益事業

##### ア 主催事業

見本市・展示会事業については、北九州市が積極的に取り組んでいる環境関連分野に重点を置き、「エコテクノ2013」や「再生可能エネルギー先端技術展2013」などの事業開催を通じて、西日本地域の経済活性化や産業・貿易の振興に努める。

また、事業の再構築を強力に推し進めていく。

##### イ 地域の事業への協賛、支援、協力

地域振興を目的に活動している小倉駅新幹線口地区振興連絡会などとの連携を図り、当該地区の事業者と共同で、地域のにぎわいづくりにも取り組む。

## ②収益事業の強化策

経済状況の変動に合わせつつ、継続的な営業成果を上げていくためには、単なる展示会場の発想を越え、各種集会やコンサートなど多用途利用を促進するとともに、当協会による自主事業の開催を含めた閑散期の利用促進対策の実施を検討する。

また、「あるある City」、「漫画ミュージアム」と連携・協力し、漫画、アニメなどサブカルチャーに関する催事や展示会の誘致・営業を行う。

## ③営業力の強化

今後も、既存の顧客に対しては利用の定着化を図るとともに、潜在的な顧客の掘り起しを進めるため、イベント開催ノウハウの提供など企画提案型の営業を強化する。

また、周辺地域のコンベンション施設や産業振興団体との営業連携も深めていく。

## (2) 新規重点活動

### ①北九州市制50周年記念事業

ア 主催事業として、新たに「日本陶芸展 九州展」を開催する。

イ 誘致事業では、「日本スポーツマスターズ2013北九州大会」を開催。

同大会は通常、県単位で行うところ、市制50周年記念事業として当協会が関係機関と協力して誘致を行い、特別に北九州市のみでの開催となった。

ウ 「第39回将棋の日 in 北九州」では、本来、山形県天童市で行われるものを、特別に北九州市で開催するもの。

### ②産業観光の取り組み（市、商工会議所、観光協会との連携）

市をあげて積極的に振興している「産業観光」について、市役所をはじめ北九州商工会議所等の関係機関と連携し、取り組みの強化を図る。

### ③施設の改善

#### ア 耐震性の確保

前年度からの引き続きで、今年度は現地調査及び構造・診断計算等所定の調査を年度末までに完了する。

#### イ 備品の充実

利用者サービスの観点より、利用者の要望の中から優先順位が高いと判断されるものについて充実を図る。

### ④指定管理事業の仕上げ

平成25年度は現行の指定管理期間の最終年度であるとともに、次期（平成26年度から5年間）の指定管理者選定が予定されている。このため、次期指定管理業務の獲得に向けて、一つでも多くの目標達成に向け努力する。

### ⑤新規事業創出への取り組み

主催事業について、時代の変化に応じた新たな柱となる、以下のア～オに掲げる事業の立ち上げを検討・研究する。

また、地域のにぎわいの核の一つとなる、カ「あるある City」との連携事業についても取り組む。

- ア 「震災・防災・防犯」総合展
- イ 「医歯工連携フェア」2014
- ウ ビジネスマッチング広域交流フェア
- エ 「航空・宇宙産業展」2015
- オ 次世代輸送機器・物流技術展
- カ 「あるある City」等との連携

#### ⑥閑散期の事業展開

##### ア 夏季（夏休み）

閑散期対策として、当協会が開催する「トミカ博 in 北九州」などのイベントを軸に、新たな事業展開を行う。

##### イ 冬季（年末・年始）

平成24年末から25年正月にかけて、子供向けの展示会を誘致するとともに協会主催でイベントを実施し、大変好評を博した。そこで、今年の年末・年始についてもイベントを企画・実施の予定。

#### ⑦山口県下関市との連携

平成27年度開催予定の「日本糖尿病学会」について、下関市コンベンションビューローより連携して開催したい旨の申し出があり、会場の一部および宿泊の大半を北九州市で受け持つ方向で調整中。

また、「第68期本因坊戦7番勝負第2局」の記念イベントとして「巖流島囲碁対局100番勝負」を国際会議場で開催。

#### ⑧学会誘致（アセアン諸国のキーパーソンへの営業）

日本で開催される学会に参加するタイ、シンガポール、香港、マレーシア等のキーパーソンに対して誘致営業を行い、各国へ誘致営業エリア拡大の足掛かりを作る。

#### ⑨広報活動

様々な広報媒体を組み合わせるメディアミックスの手法を活用し、協会施設およびイベントのPRを行い、利用者および来場者の掘り起こしに取り組む。

### （3）25年度誘致営業重点事業

区分	事業名称	開催年	規模（延べ人数）
スポーツ	グランドゴルフ全国交歓大会	2014年	4,000人
	春の中学生女子ソフトボール全国大会		5,000人
	全日本フットサル選手権大会	2015年以降	-
	世界障害者バドミントン選手権大会		-
会議大会	日本労働者協同組合全国集会	2014年	4,000人
	日本鑄造工学会		1,500人
	化学療法学会・感染症学会		3,000人
	日本社会福祉士全国大会	2015年以降	1,500人
	日本不整脈学会		3,000人

国際 学会	JSST2014	2014年	1,600人
	IEEM2015	2015年	1,500人
	アジア未来会議		1,000人
	磁気軸受国際シンポジウム 2016	2016年	1,000人
イ ベ ント	アニメ・ゲーム系イベント	2014年	30,000人
	アニメ系やアイドル系コンサートの開催	2014年以降	5,000人
	満腹王国	2015年以降	50,000人
	プラレール博		40,000人

# 《各 論》

## I 公 1 : 見本市・展示会事業（公益目的事業）

### 【概 要】

見本市・展示会事業については、北九州市が積極的に取り組んでいる環境関連分野に重点を置き、「エコテクノ2013」や「再生可能エネルギー先端技術展2013」などの事業開催を通じて、西日本地域の経済活性化や産業・貿易の振興に努める。

また、事業の再構築を強力に推し進めていくとともに、新たな柱となる事業の立ち上げを検討・研究する。

### 主催・共催事業

#### 当協会が主催・共催する主な見本市・展示会

平成25年度の事業は、「西日本インポートフェア」を「西日本インポートフェア&食メッセ2013」へ、「西日本総合機械展」を「西日本製造技術イノベーション」へと名称及び内容をリニューアルするとともに、「西日本トータルリビングショー」を解消する。

また、北九州市制50周年記念事業として新たに「日本陶芸展 九州展」を開催するなど、再構築に努め、収益のバランスを図りながら、地域における産業・貿易の振興、にぎわいづくりを目的として、引き続き11の見本市・展示会を以下のとおり企画、開催する。

事業名	開催期日	入場目標	出展目標
西日本インポートフェア&食メッセ2013	5月2日 ～6日	50,000人	250社
西日本製造技術イノベーション2013	6月12日 ～14日	20,000人	100社・団体
第39回ふくおか産業技術振興展			40社・団体
第35回西日本陶磁器フェスタ	9月13日 ～17日	50,000人	200社
第22回日本陶芸展九州展			
エコテクノ 2013	10月16日 ～18日	35,000人	220社・団体
エコ・ベンチャー・メッセ2013			35社・団体
中小企業テクノフェア in九州2013			50社・機関
九州・国際テクノフェア2013			80社・機関
再生可能エネルギー先端技術展2013			45社・機関
P.P.C.2013 第14回西日本国際福祉機器展	11月22日 ～24日	30,000人	180社・団体
合 計	11事業	205,000人	1,200社・他

※平成25年度の主催事業はすべて「市制50周年記念事業」と位置付けて実施する。

## 【事業の効果的な推進に向けた主な取り組み】

他の展示会との同日開催や双方の広告媒体を活用し、新しい連携を試みるなど、次のような取り組みも行っていく。

### ア 大型コンベンションとの同時開催

共通・類似のテーマを持つ展示会あるいは行政の行う事業とコンベンションを同時開催することにより、来場者の増加や展示会の効率化、その相乗効果による商談や交流機会の増幅を図り、産業振興やにぎわいの創出に取り組む。

#### ○「エコテクノ 2013」他同時開催事業と「環境未来都市国際会議」との連携開催

※「環境未来都市国際会議」は「第3回環境未来都市構想国際推進フォーラム」「OECD グリーンシティアレポート発表記念会議」「ESDに関するアジア太平洋地域 RCE 地域会議」等にて構成、北九州市のほか、外務省、OECD などが主催。

### イ 見本市・展示会の再構築

各展示会の目的や意義と、社会・経済情勢などを勘案しながら、常に開催内容を見直しつつ、関心を高める努力を行っていく。

#### ○「西日本インポートフェア」の内容をリニューアル

「西日本インポートフェア」の内容をリニューアルし、「西日本インポートフェア & 食メッセ2013」として開催。

新しい企画としてアジアの雑貨など楽しんでいただく「アジアンフェア」を開催。

また、昨年好評であった「イタリアンフェア」もより充実して開催。

さらに、今回からは来場者アンケートで最も関心の高かった「食」にスポットを当て、世界の「食」をテーマに、世界各国の名物料理や食材を提供すると共に、九州各県の名産品や農産物などの提供を行う。

#### ○「西日本総合機械展」の内容をリニューアル

「西日本総合機械展」の内容をリニューアルし、「西日本製造技術イノベーション2013」として開催。

九州の基幹産業である自動車・半導体から他の成長分野への参入を模索する地元企業のニーズをくみ取り、来場対象を医療・福祉、製薬、環境、食品、化学・素材等にも広げ、様々な製造技術分野における高度な取り組みを紹介していく。特に近年、モノづくりの技術を応用して進められる「医歯工連携・医療機器産業参入」に重点を置き、今回は同テーマの記念セミナーを北九州医歯工連携研究会（事務局；（公財）北九州産業学術推進機構）と連携して開催する。

#### ○西日本陶磁器フェスタの会期にあわせ、日本陶芸展九州展を同時開催

北九州市制50周年記念事業として、「第22回日本陶芸展 九州展」を西日本陶磁器フェスタに合わせて開催し、市内外に本協会の一層のアピールにつなげるとともに、市民文化の向上の役割を果たす。

日本陶芸展は、「会派・団体」や「プロ・アマ」にとらわれずに審査され、現代日本の陶芸を代表するトップレベルの作品が一堂に会する日本最大級の公募展である。

## ○5 事業を同時開催し、集客等の拡大を図る

例年秋季に二会期に分けて実施していた「エコテクノ／エコ・ベンチャー・メッセ」「中小企業テクノフェア in 九州」と「再生可能エネルギー先端技術展」「九州・国際テクノフェア」を今回、新館、本館を利用して同時に開催する。それにより、規模を拡大し、出展社、来場者のさらなる拡大と満足度の向上を図っていく。

## ○「エコテクノ」出展内容の拡大・強化

建築・住宅分野の環境技術（省エネ・長寿命化、リサイクル等）分野を取り込んでいくとともに、自動車、トラック、船舶等の輸送・低炭素化を図る技術を紹介する「次世代輸送機器・物流技術展」をフェアインフェアで開催する。

## ○「九州・国際テクノフェア」のリニューアル

情報通信産業の営業スタイルの変化に伴い、従来の展示中心の内容からセミナーと展示をミックスした会場構成にリニューアル。

## ウ 国際化の推進

国内市場が縮小するなか、海外との取引拡大の機会提供に注力する。

### （１）アジアの関係団体等への展示会出展誘致活動の充実

韓国を中心としたアジア各国に対して出展要項の配布を行い、当協会主催の展示会への出展やセミナー、シンポジウム等への参加に関する誘致活動を行うとともに、ミッション団の会場視察の誘致にも取り組む。

なお、昨年尖閣諸島の問題で直前キャンセルとなった中国に関しては、問題が長引いており、どの時期に再開するかの目処はついていない。

主催事業名	企業出展内容	関係国・機関等
西日本インポートフェア&食メッセ 2013	10 社、10 小間	韓国優良製品振興協会
	12 社、12 小間	スリランカ大使館
	1 社、1 小間	ベトナム領事館
	1 社、1 小間	インドネシア貿易振興センター
西日本製造技術イノベーション 2013	5 社・団体	韓国
エコテクノ 2013	5 社・団体	韓国

### （２）北九州市アジア低炭素化センターとの連携

アジア低炭素化センターの海外事業との連携により、出展・ミッション団視察等の協力を図っていく。

## エ 成果のあがる展示会の構築

主催展示会での販売促進や商談の支援のため、出展社とニーズ企業との橋渡しに努め、ビジネスマッチングの精度や確度を高める。

### ○中小企業テクノフェア in 九州 2013 ビジネスマッチング事業

（貿易・産業協力振興事業）

ビジネスマッチングには、大手企業の技術者OBで構成されるNPO法人テクノサポートを活用し、事前PRや発注-受注企業間の「橋渡し」から「摺合せ」まで細かくサポートしていく。

## ○西日本製造技術イノベーション2013 商談会の開催（新規）

北九州市受注拡大商談会（北九州市主催）中止に伴い、それに代わる商談会を福岡県中小企業振興センターの協力を得て、当協会にて開催。

## オ セミナー・シンポジウム・併催事業

前述の当協会の主催・共催事業と並行して、次のようなセミナー・シンポジウム等を同時開催し、事業の相乗効果を高める。

### （１）セミナー・シンポジウム

セミナー名	内容・講師（実施主体）	テーマ数	参加人数（人）	主催事業名
開催記念セミナー 関連セミナー 他	医歯工連携・医療機器産業参入をテーマとした記念セミナー	3	300	西日本製造技術イノベーション
開会記念セミナー 他	地球環境・新エネルギー関係セミナー各種	10	1,500	エコテクノ
記念講演会 （貿易・産業協力振興事業）	東成エレクトロビーム（株） 代表取締役会長 上野 保 氏	1	100	中小企業テクノフェア in 九州
基調講演会 自動車技術セミナー （貿易・産業協力振興事業） 出展社セミナー 他	情報通信関係・カーエレクトロニクスをテーマとした各種セミナーと企業プレゼンセミナー	40	1200	九州・国際テクノフェア
基調講演会他	再生可能エネルギー、燃料電池、水素関係セミナー各種	7	1000	再生可能エネルギー先端技術展
開催記念講演会 他	介護職・福祉用具専門相談員のための福祉用具活用セミナー&介護セミナー 講師 NPO福祉用具ネット	49	1,500	西日本国際福祉機器展
合 計		110	5,600	

### （２）併催事業

事業名	事業内容（実施主体）	出展社数	主催事業名
ロボット産業マッチングフェア北九州	北九州ロボットフォーラム	37社・団体	西日本製造技術イノベーション

## カ 関係団体との連携事業

### 主催事業における産学官連携

主催事業のうち、産業技術分野の展示会では、国、県、北九州市や大学、関係団体、研究機関等と連携し、効果的な事業推進を図っていく。

事業名	関係団体	大学・研究機関	関係行政機関
西日本製造技術イノベーション2013	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(財)福岡県中小企業振興センター</li> <li>・ロボット産業推進会議</li> <li>・北九州ロボットフォーラム</li> <li>・(公財)北九州産業学術推進機構</li> <li>・九州航空宇宙開発推進会議</li> <li>・(社)九州経済連合会</li> <li>・福岡県航空機産業振興会議</li> <li>・北九州医歯工連携研究会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・九州工業大学</li> <li>・大分大学</li> <li>・九州共立大学</li> <li>・九州産業大学</li> <li>・西日本工業大学</li> <li>・福岡大学</li> <li>・福岡工業大学</li> <li>・北九州工業高専</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済産業省</li> <li>・福岡県</li> <li>・北九州市</li> </ul>
エコテクノ2013 エコ・ベンチャー・メッセ2013	<ul style="list-style-type: none"> <li>・九州地域環境・リサイクル産業交流プラザ(K-RIP)</li> <li>・北九州環境ビジネス推進会</li> <li>・(一社)九州ニュービジネス協議会</li> <li>・福岡県リサイクル総合研究センター</li> <li>・福岡県中小企業家同友会</li> <li>・(公財)北九州産業学術推進機構</li> <li>・日本貿易振興機構</li> <li>・九州ソーラーネットワーク</li> <li>・九州スマートコミュニティ連絡会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・九州工業大学</li> <li>・熊本大学</li> <li>・大分大学</li> <li>・北九州市立大学</li> <li>・福岡女子大学</li> <li>・九州共立大学</li> <li>・福岡大学</li> <li>・久留米大学</li> <li>・福岡工業大学</li> <li>・九州産業大学</li> <li>・長崎総合科学大学</li> <li>・崇城大学</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境省</li> <li>・経済産業省</li> <li>・資源エネルギー庁</li> <li>・九州経済産業局</li> <li>・福岡財務支局</li> <li>・福岡県</li> <li>・北九州市</li> </ul>
九州・国際テクノフェア2013	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(社)九州経済連合会</li> <li>・(独)中小企業基盤整備機構</li> <li>・(独)日本貿易振興機構</li> <li>・(公社)九州機械工業振興会</li> <li>・(一社)九州ニュービジネス協議会</li> <li>・(公財)北九州産業学術推進機構</li> <li>・(公財)九州ヒューマンメディア創造センター</li> <li>・(社)九州テレコム振興センター</li> <li>・(社)福岡県情報サービス産業協会</li> <li>・(一財)九州産業技術センター</li> <li>・北九州商工会議所</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・九州工業大学</li> <li>・北九州市立大学</li> <li>・九州産業大学</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・九州経済産業局</li> <li>・九州総合通信局</li> <li>・福岡県</li> <li>・北九州市</li> </ul>
再生可能エネルギー先端技術展2013	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福岡水素エネルギー戦略会議</li> <li>・NEDO</li> <li>・NEF(新エネルギー財団)</li> <li>・(独)産業技術総合研究所水素材料先端科学技術センター</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・九州大学</li> <li>・九州工業大学</li> <li>・北九州市立大学</li> <li>・有明高専</li> <li>・鹿児島大学</li> <li>・熊本大学</li> <li>・山口大学</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資源エネルギー庁</li> <li>・九州経済産業局</li> <li>・福岡県</li> <li>・佐賀県</li> <li>・北九州市</li> </ul>

西日本国際福祉機器展	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉住環境コーディネーター協会</li> <li>・日本リハビリテーション工学協会</li> <li>・(社)福岡県作業療法協会</li> <li>・(社)福岡県理学療法士会</li> <li>・NPO法人 ケアマネット21</li> <li>・福岡県保険医協会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・九州工業大学</li> <li>・福岡県立大学</li> <li>・熊本学園大学</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済産業省</li> <li>・厚生労働省</li> <li>・福岡県</li> <li>・北九州市</li> </ul>
------------	--	---	---

## キ その他の連携・交流

### 環境ビジネス展示会との連携

地方における環境系展示会の主催者が連携することにより、国の施策の活用や環境負荷低減に向けた取り組みを強化する。

- ・環境省がすすめる低炭素社会実現にむけての企画の共同提案
- ・展示会における環境負荷低減（グリーン電力の導入等）

## ク 新規事業の展望

新たな主催事業の開発調査に着手する。

### ①「震災・防災・防犯」総合展

行政との連携のもと、最新の防災、減災及び危機管理に関する製品・技術・サービスを一堂に展示紹介するとともに防災意識の啓発を図る。

2014以降の実施に向けて、調査を行う（2013年調査費を計上）

### ②「医歯工連携フェア2014」

「医歯工連携フェア2014」実施に向けて、2013年にイベントとして、FAIS協力のもと、医歯工連携をテーマとした基調講演を「西日本製造技術イノベーション」と同時開催する。

### ③ビジネスマッチング広域交流フェア

北九州市受注拡大商談会（市・中小企業振興課）が予算カットにより消滅。「西日本製造技術イノベーション」、「ロボット産業マッチングフェア北九州」、「ふくおか産業技術振興展」の合同の商談会として、協会主催により実施。

### ④「航空・宇宙産業展2015」

国産航空機の生産開始に呼応し、地域の製造業の参入機会の創出を目的に、新規に航空・宇宙産業関連の展示会を調査する。（2013年調査費を計上）

### ⑤次世代輸送機器・物流技術展

現在のエコテクノの電気自動車コーナーを発展させ、環境負荷軽減を考慮した輸送機械・物流をテーマに、エコカー、トラック、船舶、航空機等の展示を行う。

## Ⅱ 公 2 : 会議・大会等（公益目的事業）

### 【概要】

都市間の誘致競争が激化する中、北九州市の活性化に寄与し、多大な経済効果が見込める各種の会議・大会等を誘致するため、地元はもとより全国のキーパーソンに積極的かつ計画的に誘致活動を行う。

北九州市の開催助成金制度の有効活用も図り、新規エリアの開拓および大規模な国際会議や全国規模のスポーツ大会等の誘致を引き続き推進する。

また、主催・共催事業の異業種交流イベントや女性俳句大会およびハイビジョン将棋フェスティバルについても、昨年と同様に開催する。

### 1 誘致・支援事業

平成24年度も国際規模をはじめとする学会・大会等の誘致に積極的に取り組んだ結果、開催件数・参加者ともに震災前の水準まで持ち直した。しかし、都市間のコンベンション誘致競争が激化する中、各都市ではインセンティブツアー支援制度の新設や都市の特色でもあるユニークベニユアのPR等に拍車がかかっている。

このような状況下、当協会においても北九州市独自の産業観光をはじめ、市内ユニークベニユア施設の提案や助成金制度等のツールを有効に活用して営業強化に努めるとともに、開催地決定の権限を持つキーパーソンを北九州市に招致し、開催確率を高める等、積極的かつ戦略的に誘致活動を展開する。

### 【参考】◆平成25年度以降開催の主な会議・大会等

規模	名 称	開催時期	会 場	規模 (外国国数、人数)
国際	e-CASE2013 国際電子情報工学系会議	H25年 4月	北九州国際会議場	800人 (18カ国 600人)
	PEDS2013 国際パワーエレクトロニクスとドライ ブシステム会議	H25年 4月	北九州国際会議場	1,000人 (25カ国 700人)
	21st International Input-Output Conference 国際産業連関分析学会	H25年 7月	北九州国際会議場	900人 (30カ国 4人)
	ISMB2016 第15回世界磁気軸受国 際シンポジウム	H28年 7月	北九州国際会議場	1,000人 (20カ国 900人)
	IRC2016 国際ゴム技術会議 IRC2016 ゴム・エラストマー技術展	H28年 10月	北九州国際会議場 西日本総合展示場 新館	2,750人 (20カ国 750人)
全国	第34回母乳育児学習会	H25年 6月	北九州国際会議場	2,000人
	第67回全日本学生体操競技選手権 大会※1	H25年 8月	北九州市立総合体 育館	2,500人
	日本スポーツマスターズ2013 北九州大会※2	H25年 9月	市内各地	24,000人
	日本レーザー学会	H26年 1月	北九州国際会議場	1,200人

	第49回地盤工学会全国大会	H26年 7月	北九州国際会議場 西日本総合展示場 新館	5,400人
九州	日本褥瘡学会九州地方会学術集会・ 教育セミナー	H25年 5月	アルモニーサンク 北九州ソレイユホ ール	1,600人
	平成25年度九社連老人福祉施設協 議会職員研究大会	H25年 7月	西日本総合展示場 新館	4,000人

※1：市制50周年記念事業

※2：同大会は通常、県単位で行うところ、市制50周年記念事業として当協会が関係機関と協力して誘致を行い、特別に北九州市のみでの開催となったもの。

## (誘致に向けた主な取り組み)

### (1) キーパーソンへの積極的な誘致営業

地元のキーパーソンとの信頼関係の維持に努めるとともに、高齢化社会をキーワードとした「健康・福祉」や環境モデル都市としての蓄積や経験を活かした「環境・ものづくり産業」という地域特性に基づいた誘致活動を推進する。

また、大会等で北九州市を訪れるキーパーソンに対し、類似大会等の再誘致を積極的に働きかけるとともに北九州市の魅力情報発信ツールの強化に努める。

- 山口県及び九州各県の大学等にキーパーソンの人脈を活用し、国際会議の誘致対象の拡大を図る。今後、山口大学、鹿児島大学、熊本県立大学、大分大学、佐賀大学等のキーパーソンに学会誘致を行う。
- 高齢化率の高い北九州市の政策と連携させ、高齢化社会と福祉をテーマにした「アジア太平洋アクティブ・エイジング会議」「日本福祉のまちづくり学会」を誘致開催、本市の政策責任者が講演者として登壇し反響を呼んだ。今後も、老年学会はじめ本市の特性を生かした学会大会の誘致を積極的に推進する。
- アフターコンベンションとして位置付けていた「環境学習ツアー」、「産業観光」も工学系の学会を中心に好評であり、「スマートグリッド」をテーマにした学会からも大きな関心が寄せられている。これらを他都市との差別化を図る観光資源として活用し、誘致成功に向けた基盤を構築する。
- キーパーソンが多数在籍する産業医科大学や、今年100周年を迎える九州歯科大学の学会誘致を引き続き強化するほか、山口大学、久留米大学など広範囲にわたり営業エリアを広げ、医学会系のキーパーソンネットワークを構築する。
- 平成25年度に開催される「第67回全日本学生体操競技選手権大会」および「第65回全日本学生新体操選手権大会」に関しては、使用施設の設備器具の充実などを行政へ働きかけ、開催環境を整えた上で主催者の要望に沿った充実した施設設備をアピールし、再誘致を目指す。
- 東アジアマーケットの掘り起しを図る。特に需要の大きな台湾においては主要国立大学訪問を強化して人脈を広げる。また営業対象を成長幅の大きいタイ、シンガポール、香港、

マレーシア等に拡大し、近い将来のインセンティブツアー需要の取り込み体制の基礎を作る。さらに中国については需要回復の可能性もあり、会議見本市等を利用した営業を強化する。

※会議見本市等の場を利用して現地に赴き営業展開を図る。

※海外では、会議の内容と関連した見本市が同時に開催されるケースが多い。

○欧米を拠点とした国際会議をアジア開催にシフトするための営業に着手し、日本でのキーパーソン営業による実績 (ISMB2016 や※チェコジャパン 2014 等) に加え、学会見本市等を利用した誘致を強化する。

※チェコと日本の交流会

○平成25年度中に北九州市からの情報発信力及び、国際会議誘致の効率的営業体制を強化するための海外主催者向け営業用ホームページの作成と活用を推進する。

○平成25年度開催の「日本スポーツマスターズ2013北九州大会」(13競技)を利用して、その場に参加している個別競技毎のキーパーソンへ、各競技個別の大会開催誘致活動を積極的に展開していく。

○地元のスポーツ競技団体や北九州市のスポーツ関連部局との連携強化およびスポーツコンベンションの誘致促進に向けて「スポーツコンベンション説明会・情報交換会」を引き続き実施して共同体制の構築を図る。

## (2) 国際ミーティング・エキスポ (IME2013) への出展

我が国で唯一のコンベンション関係者が一堂に集うトレード・ショー「国際ミーティング・エキスポ(IME2013)」に出展し、コンベンションシティ北九州市のPRを行い、会議・大会を主催する学会や協会等のキーパーソンへの誘致活動を展開する。

さらに昨年から実施している北九州商工会議所産業観光推進室との出展連携を継続する。

### 【平成24年度実績】

#### ●アジア国際皮革技術者化学者会議

全国6都市(松江、新潟、静岡、金沢、岡山、北九州)競合の中、現在最終2都市(岡山、北九州)に残る

平成26年10月 日本開催予定(北九州国際会議場を提案)

250名×4日間

海外130名(欧米30名、中国70名、台湾20名、インド8名、他アジア2名)

国内120名(福岡県内20名、県外100名)

#### ●QCサークル全国大会

別府、北九州の2都市で競合の中、ほぼ北九州開催で内諾得る

平成26年2月開催予定(北九州国際会議場を提案)

700名×2日間

## (3) コンベンション開催助成金の活用による誘致活動

平成21年度から実施されたコンベンション開催助成金の拡充を受け、誘致活動において助成金を効果的に活用することにより経済効果の高いコンベンションの誘致を積極的に展開する。

【参考】◆平成24年度 助成金交付実績（内訳）

規模別	件数（件）	助成金額（千円）	参加人数（人）
国際	29	35,860	21,321
全国	38	24,580	40,266
西日本・九州	28	12,450	30,987
計	95	72,890	92,574

（4）コンベンションボランティア制度を活用した開催支援

主催者に国際学会での語学対応をはじめ学会・大会での会場運営などに、ボランティアを派遣して、市外からの参加者とボランティアの交流を図り北九州市の魅力を引き続き発信していく。

◆コンベンションボランティア派遣実績

区分	登録者数（人）	派遣件数（件）	派遣人数（人）
24年度	67	10	89
23年度	57	10	128
22年度	86	3	40

（5）俳句大会・吟行の誘致、支援

「俳句のまち北九州」を目指して、平成5年より俳句大会等の誘致・支援に取り組んでおり、それにより広がった俳句結社・主宰とのネットワークを最大限に活用しながら大会開催の情報を収集し、より効率的な誘致に取り組んでいく。

平成25年度は、第15回同人九州俳句大会をはじめとした吟行句会などにおいて、市内の文化的資産や産業観光施設などを巡る吟行を行っていく。今後も、少数精鋭で費用対効果の高い誘致、支援活動を継続し、「俳句のまち北九州」を全国に発信する。

## 2 主催・共催事業

国際会議場を活用するなどして、幅広い年齢層を対象に各種イベントを実施する。なお、開催にあたっては、事業内容の拡充やPR活動の強化といった工夫を凝らし、来場者増を図る。

特に、女性俳句大会については、平成24年度に実施した「外国人の部」など新たな参加者の獲得に向けた取り組みを強化していく。

◆ イベント・大会等の企画、開催（主催・共催）

事業名	開催期日	目標入場者数
コンベンションサロン「北九州泡盛会」	夏季および冬季	各300人
夏休みこどもシアター	H25年7月	500人
※第39回将棋の日in北九州	H25年11月	1,000人

冬休みこどもシアター	H25年12月	500人
第13回全国女性俳句大会 in 北九州	H26年3月	1600人
第22回北九州ハイビジョン将棋フェスティバル	H26年3月	500人

※市制50周年記念事業として実施するもの。

#### 【概要】

経済状況の変動に合わせつつ、継続的な営業成果を上げていくためには、単なる展示会場の発想を越え、各種集会やコンサートなど多用途利用を促進するとともに、当協会による自主事業の開催を含めた閑散期の利用促進対策の実施を検討する。

今後も、既存の顧客に対しては利用の定着化を図るとともに、潜在的な顧客の掘り起しを進めるため、イベント開催ノウハウの提供など企画提案型の営業を強化する。また、周辺地域のコンベンション施設や産業振興団体との連携も深めていく。

#### 1 営業体制の強化

当協会施設の稼働率向上を目指して、既存顧客の施設利用定着化を図るとともに、展示場の多用途利用を促進するため、対象の業態やエリアを広げ、新たな利用者の開拓に取り組む。また、顧客のビジネス成果を向上させるための各種支援も強化する。

##### (1) 既存利用者の定着化および復活

過去の展示場の顧客データを洗い出すなどし、利用頻度が減少等している顧客に対し、施設利用の働きかけを行なう。こうした実績を基に新たな顧客の開拓に努める。

##### (2) 新規利用者の開拓

従来の見本市・展示会の誘致に加え、展示場・会議場の新たな利用形態を模索し、新規分野（企業プライベートショーや文化催事など）を中心に福岡都市圏や首都圏などでの積極的な営業活動を展開する。

今後は、イベント主催者となるテレビ、新聞といったマスコミ等にも、イベント開催に向けた情報交換を行うとともに、利用に向けた提案や共同主催等の働きかけを広げる。

##### (3) 主催者への各種支援等

当協会施設の利用効果を高める取り組みとして、集客および広報の支援などを実施する。具体的には、同じような客層をターゲットとした他の展示会等との同時開催（日程調整）や共同広告を調整するなど、相乗効果を高めるための提案を行う。

##### (4) 閑散期対策

展示会場の利用方法についても、展示会から個別のビジネスマッチングやまちづくり・にぎわいづくりのイベントに利用が広がりつつある。

そこで、閑散期については、こうした社会のニーズの変化を捉え、当協会が開催するイベントとして、「トミカ博 in 北九州」や年末・年始イベントの共催事業などを軸に、新たな閑散期対策を実施していく。

## IV 公1・公2・公3・収1：広報・宣伝、地域連携

### 【概要】

様々な広報媒体を組み合わせるメディアミックスの手法を活用し、協会施設およびイベントのPRを行い、利用者および来場者の掘り起こしに取り組む。

また、JR主要駅に近接しているという施設の特徴を生かすため、JR九州との連携による、効果的な主催事業のPRを行う。

さらに、新幹線口エリアの事業者と共同で、地域のにぎわいづくりにも取り組む。

## 1 広報・宣伝

### (1) インターネットを活用した広報の実施

協会ホームページを活用し、施設の紹介をはじめ、協会の主催事業及び展示場、会議場の催事案内などの最新情報を提供する。

### (2) 協会情報誌「催事案内」の発行

各区役所や各区の出張所および市民センターやJR小倉駅、市内ホテルなどへ配布・掲出し、当協会施設で開催予定の主催事業や展示会・イベント・学術会議・大会などのコンベンション情報を広く紹介する。

### (3) コンベンションカレンダーの作成と提供

北九州市内で開催される様々なコンベンション情報を収集・整理し、コンベンションカレンダーとして定期的に賛助会員等への情報提供を行う。

### (4) コンベンションゾーンのPR

北九州市の玄関口である北九州空港において、電照広告看板による施設のPRを実施する。また、JR小倉駅のマルチビジョンによるPRも行う。

さらに、「月間催し物案内」の広告出稿、JR小倉駅新幹線口や北九州モノレール各駅へのポスター掲示、加えて、公共性の高いイベントについては、市政だよりへ記事を掲載するなど、施設利用者への広報支援を積極的に実施する。

### (5) コンベンション開催助成金制度のPR

北九州市のコンベンション開催助成金制度について、IME2013でのチラシ配布や、E&C、見本市展示会通信、MICE Japan等の広告媒体を活用し、全国にPRする。

## 2 地域連携

### (1) 小倉駅新幹線口地区魅力アップイベント開催の検討

小倉駅新幹線口地区の魅力アップとにぎわいづくりに資するため、北九州市制50周年記念関連事業への協賛、支援、協力を積極的に行うとともに、「あるあるCity」などと連携したイベントの開催を検討する。

具体的には、あるあるCity開業1周年記念事業を盛り上げるため、タイアップ事業を計画する。

## (2) 小倉駅新幹線口地区振興連絡会との連携

小倉駅新幹線口の回遊性、利便性を高め、持続的なにぎわいと、地区の魅力向上を図るために作成した「新幹線口地区ぐるりマップ」を活用したPRを行う。

また、当該地区の企業・団体との交流や情報交換を活発に行うため、意見交換会や交流会、地域活動（例：地域清掃）などを開催する。

## (3) JR連携事業

### ア JR九州との連携

JR小倉駅をはじめとした北九州市近郊の主要駅に、協会主催事業をはじめ、主要イベント等のポスター・チラシを掲出し、広域からの集客向上を図るためのネットワーク構築に取り組む。

### イ イメージアップの取り組み

各種時刻表へ協会および展示場の広告を掲載する。

協会の主催事業やイベントとJR九州ポケット時刻表および小倉駅の時刻表をセットにしたものを共同で作成し、小倉駅をはじめJR九州管内の各駅で配布する。

### 【概要】

西日本総合展示場本館・新館及び北九州国際会議場について施設管理者として公正かつ適正・効率的な管理運営を行うとともに、一層のお客様サービスの向上、安全・安心を目指した施設設備の改善・充実に努める。

## 1 お客様満足度の向上

### (1) サービスの向上

ア 利用者、来場者アンケートをみると地下駐車場及び2F ガレリアから目的会場までの経路がわかりにくいとの声があることから、新館、本館、会議場の階層、位置関係や諸室までの導線を示した「フロアガイド」を新規作成するとともにデジタルサイネージ（電子案内板）の導入も視野にアクセスの改善を図る。

イ 新館及び会議場並びに本館について、平成24年度中に公衆無線LAN網の設置が完了することからサイバー犯罪等のトラブル防止に配慮しつつ、利用規約、認証方法等の整備を行い、無料インターネット接続サービスの運用を開始する。

ウ 会議場の料金体系は、利用時間区分、利用日数、利用内容により会場使用料や備品使用料の算定が複雑で利用者が誤解するケースが見受けられるため、料金算定事例や平均的な利用パッケージメニュー等をホームページに新規掲載し、トラブルの防止に努めるとともにホームページ上で展示場を含めた会場使用料算定シミュレーションとして概算金額が計算できるページづくりなどホームページを積極的に活用したサービス提供を検討する。

エ 展示会、学会主催者向けにチラシ、レジメ、冊子作製を支援する有料プリントサービスや要望の多い消耗品等を有料で提供するサービスなど利用者のニーズなどを踏まえ、現場サポート力アップにつながる新規サービスメニューを検討する。

### (3) エコアクション21 認証更新

環境保全活動への意識を高め、環境に配慮した事業運営を行うため、平成21年度に認証を取得した「エコアクション21」について、平成25年度は認証を更新する。

## 2 利用料金等の見直しの検討

利用料金等の見直しについては、施設の利用用途の拡大や稼働率・収入構造の改善を目的に備品利用料の割引や独自の会場利用料支援策を含めて、公の施設の管理運営に支障のない範囲で、メニューづくりを行うべく北九州市と引き続き協議する。

## 3 管理業務の効率化

### (1) 管理経費の削減

電力料金の値上げに対応して西日本総合展示場新館・本館及び北九州国際会議場を含めた三施設をパッケージにした電力供給入札を実施して電力料金設定の低減を図った。

さらに、運用上もデマンドの監視、力率の改善、空調動力の時差運転を行うなど継続的な消費電力の削減の取り組みを行い、管理経費の縮減に注力する。

## 4 施設の改修等

### (1) 西日本総合展示場本館の改修等

当会の基本財産である本館については、現地調査及び構造・診断計算等、所定の耐震診断業務を本年度末までに完了する。

また、老朽化が進んでいる「屋根防水・雨水管」、「空調ガスヒートポンプ設備」、「消防設備」、「放送設備」の予防保守を実施する。

### (2) 西日本総合展示場新館の改修等

#### ア 北九州市実施の改修

新館については交換部品が製造中止となり、故障時の業務への悪影響が懸念されていた電話機・PHS・構内電話交換機（PBX）及び頻繁に不具合が発生していた各室の電子錠を制御する磁気カード施錠型鍵管理システムを更新する。

#### イ 北九州市に要望する改修等

新館天井面に30ヶ所設置している照明・美術バトンのロープ、ケーブル、巻上げ機の段階的な改修提案や入場者カウンターシステムなど、利便設備の更新を北九州市に要望する。

#### ウ その他の改修等

大空間仕様の煙探知機など法令に定められた消防設備等の不具合には迅速に対応する。また、汚損されることの多い机、椅子など利用頻度の高い備品類のメンテナンスを拡充する。

### (3) 北九州国際会議場の改修等

#### ア 北九州市の改修等

経年劣化が進行し、懸案事項であった空調中央制御監視装置及び各機械室に設置されているエアハンドリングユニットのコントローラや湿温センサーなど施設全体の空調管制システムを更新する。

#### イ 北九州市に要望する改修等

耐用年数末期を迎え、大規模改修となる受電設備や照明電源設備など基盤的設備は引き続き改修要望する。また、会議場でも代替機、本体部品供給が終了している電話機・PHS・構内電話交換機（PBX）の更新とともに今年度実施予定の空調管制システムの更新時に空調効率化対策としてレストラン空調制御の統合とイベントホールのガラス面遮光設備の設置を北九州市に合わせて要望する。

#### ウ その他改修等

壁面などの美観保全工事や冷温水配管のバルブ故障など水回りの老朽化に伴う補修工事を適宜実施する。また、屋外喫煙所の屋根整備やメインおよびサブエントランス出入口の段差解消などの対策を検討する。